

教団新報

定 価 1 部 140 円 (本 体 133 円 千 共 200 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,000 円
紙 代 の み 3,500 円
振 替 00140-9-145275
本 紙 を 購 読 ご 希 望 の 方 は、前 金 を
そ へ て、お 近 く の キ リ ス ト 教 書 店
へ お 申 し 込 み 下 さ い。
教 会 の 購 読 料 は 負 担 金 に 含 み ま す。

発 行 所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東 京 都 新 宿 区 西 早 稲 田 2-3-18
日 本 キ リ ス ト 教 会 館 内 電 話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
発 行 人 内 藤 留 幸
編 集 主 筆 竹 澤 知 代 志
印 刷 所 株 式 会 社 き か ん し



陸前高田、行方不明者の搜索

東日本大震災 戦場さながらの被災地に行く

教団訪問団、宮古・釜石へ

岩手県海岸沿い、そこは戦場であった。自衛隊員は迷彩服姿で重機を操縦し瓦礫を撤去。消防隊員は隊列を組んで行方不明者を搜索。津波後、火災が襲った山田町では建物が焼け爛

(た)れる。パレーポール程の大きさの、養殖用ブイは葡萄のように何百個と連なつたまま、店舗の屋根に絡みつく。震災から2週間半も経っているのに。いつもなら立ち入り禁止の危険区域を、一般車輛が中央突破できる非日常が、そこにあった。

市民は浸水家屋から泥まみれの家具・畳・商品を道端に運び出していた。百キロで走る車が激突して倒れぬ電柱さえ、2箇所で折れ曲がる。防波堤裏手に群生する松の木は剃刀に切り取られたよう。海底での凄ま

じいエネルギー解放により、海水が底の泥砂を巻き上げ、屋下りの市民を強襲した。

3月13日出発の第1回訪問に続き、教団は3月28日、第2回目の訪問団を派遣した。前回は被災直後、ライフライン復旧も儘ならぬ仙台市周辺が中心だった。今回は2週間を経、カソリン補給さえ叶う岩手県の、新生釜石教会・宮古教会訪問が主目的だった。

石橋秀雄議長が運転する、神学生と物資満載のマイクローバスは花巻教会に着。ここを拠点に、朝な夕な御言葉と祈りの営みを堅

持しつつ、日中は釜石に向き、新生釜石教会周辺で奉仕。変り果てた商店街に佇む市民を問安したり、未だ行方不明の教団員が経営する洋装店を、泥まみれになつて片付けたり。晴天が続くと、3センチ程に積みあがった汚泥が、雑菌と共に埃となつて空中を舞い上がる。泥の除染は、人手の要る地道な作業。夏の到来前に市民の手で処分せねば、疫病伝染をもたらすだろう。物資は満たされつつあり、必要なのは人手だった。行政の救援活動が本格化しても、取り残される人たちがいる。そこに教会奉

仕の場もある。さて北紀吉常議員と加藤(幹事)とが運転する自家用車は、マイクローバスを追い1日遅れて花巻に到着。翌朝は南東の陸前高田市を経由して沿岸を北上。釜石の神学生奉仕隊に合流した後、幹事が議長を乗せて宮古教会を訪問した。途中、目に飛び込む光景に胸を痛めたが、宮古教会に詰める盛岡YMCAの青年たちとの出会いに心温められた。常議員と幹事は、更に盛岡の奥羽教区事務所に向かい松浦裕介教区主事と面談した。帰途、東北教区事務所にも立ち寄り、高橋和人

と無意味になってしまひ、結果的に誤報にさへなりかねない。速報はHP等に委ね、数日では変化しない事柄をお知らせしたい。宮古教会は、津波に浸かつた教会を、主に地域に支援物資を届ける集積センターとして用いている。森分和基教師から、自然発生的に奉仕が始められた経緯、隣接の公設避難所とのやりとりなどを聞いた。その手際の良さに感心した同行の一人が、「先生はこの道のプロですか」と質問すると、「いいえ、素人です。高校生の時に兵庫でボランティアを体験したが、子どもの

遊び相手をしただけです」。なる程、ボランティアに口はいないだろう。しかし、体験は確かに生きていた。「一番必要なものには「休み」。この答えは、この後何人からも聞いた。週報作りだけでも頼みたい、説教者がいたら」。救援活動に普段の牧会、倍の働きが要求される。牧師を支えるボランティアが必要だ。

新生釜石教会では、礼拝堂前の駐車場スペースにテントを張り、お茶などを供する席が設けられた。そうしないと、物資を並べた会堂の中までは見えない通り過ぎると、柳谷雄介教師。道行く一人ひとりに声をかける。そこに、医師という札を首に掛けた見覚えのある人物。記者の教会でかつて伝道集会講師として招いたJOC S (日本キリスト教海外医療協力会)の樗戸健次郎ワーカーが医療相談に当たっていた。今お住まいはどちらですかと聞くと「ネパールです」。たまたま報告会で帰国中だった地域の、特にお年寄りにとっては、実に頼もしい存在だ。

柳谷教師の緊急に必要なものは、混乱の中で失われた腕時計。日常という時間が止まったのだということ

教区議長らと2時間弱に亘って協議の時を持った。同教区センター内の仙台学生センターには、東京からキリスト教学生友愛会(SCF)のボランティアが十名程詰めており、効果的な救援活動を展開していた。また超教派での仙台キリスト教連合の協議会もこちらで開催され、3月31日には多数の外国人を含む80名弱が集合。キリストにあつて一つ、を実感させてくれた。

この度の震災は、歴史と宇宙を誰が統治するのか、を明快にした。日本の救いは、教会の伝道に懸かっている。神はこの国を憐れみ教会を力づけ、日本を救つて下さるに違いない。(加藤誠報)

大船渡教会へ3月末に赴任した村谷正人教師は、当初、会堂に救援物資を広げるのには抵抗を覚えた」と言う。しかし、惨状を目の当たりにしては是非もない。高台にあり津波を免れた教会は、さながら無料コンビニとなった。日曜日は、一端物資を除けて礼拝を守るのが手間だという。そこに、かいがいしく働く可愛らしい女子高生2人の姿。「教団員ですか」と聞くと、村谷教師は少し照れて、実はと話してくれた。そもそも2人は被災者、物資を調達する目的でやって来た。品物を物色する様子に、ボランティアと間違えた。用事を頼み、働いて貰うことで、2人は自動的に

を思い知らされる。道中では新しい時計が手に入らず、同行の東海教区議長が、「安物で直ぐ壊れるかも知れないが間に合わせに」と断って自分の腕から外す。思いがあれば、時間だって提供し共有できる。

被災者からボランティアに変身してしまったのだ。多分、この後は教団員にも希望の観測か。

この後も、岩手・宮城・福島、の諸教会を歴訪したが、次号に譲り、訪問できた中で、32キロ北と最も原発近くにある鹿島栄光教会と、更に福島新町教会の報告を先にしたい。

鹿島栄光教会は、年鑑によると現住陪餐会員8名、礼拝出席7名。ずっと一桁の礼拝を守つて来た。今、一家族が避難し、礼拝は牧師家族4人だけだ。佐々木茂教師は前任地に自宅を持つてゐる。いっそ避難したら勧められるそうだが、小さな小さな福音の蠟燭を灯し続けるために留まると言う。そのことが、周辺の人々に平安を約束するのだと信じて。

誰も見ていないようで、実は見えている、何の関心も無いようであり、案外に注目している、そう信じて。教会の屋根瓦が落ち、雨漏りが心配な状況になっている。そうしたら、近所の方々が、屋根にレニールシートを載せてくれたそうだ。譬えは悪いかも知れないが、周辺の住民にとって、教会は、ちっぽけな祠のようなものだ。普段、信仰している訳でもない。通り過ぎる時に手を合わせることもない。しかし、そこに有ることを知っている。そこに有つて欲しい。壊れたり、転がったりしたら、寂しいし悲しい。

この教会に、教会関係の救援物資が、僅かながら届いた。それを近所と分かち合っている。記者は、佐々木教師が健康を損ねて節制していたことを忘れて、お見舞いに、持っていてはならないものを持参してしまつた。彼は、「近所の人たちとちびちびやるかな」と、嬉しそうに言つて、夫人に睨まれた。

福島新町教会は会堂の亀裂が大きく、崩れかかった塔を撤去せざるを得なかった。訪問後の余震で亀裂は更に広がっていると、瀧山勝子教師に聞く。

讃美歌21の533番「どんなときでも、どんなときでも、苦しみによけず、くじけてはならない」この作詞者の欄には、高橋順子、1959〜1967とある。誤植かと気がかかつて調べたら、7歳で召された福島新町教会の教団員の娘・教会学校生徒だと教えられた。くじけてはならない、イエスキリストの愛があるから。また、10面に関連記事。

くじけてはならない、イエスキリストの愛があるから

4月4〜8日(月〜金)、奥羽・東北両教区に献金を届け、一つでも多くの被災教会を訪ね共に祈ることを目的として被災地を訪問した東海教区小出望議長、宮本義弘伝道委員長(教団宣教研究所委員長)に、教団新報も同行した。

教会員の消息も、会堂・牧師館の被害状況も、余震の度毎に変化する。普段は、原稿締め切りから印刷所入稿まで一週間、発送までは更に5日が必要なのだが、震災後、その一週間は2日に短縮して新報を発行している。しかし、被害の一覧を出しても、数日経ては殆

ど無意味になってしまひ、結果的に誤報にさへなりかねない。速報はHP等に委ね、数日では変化しない事柄をお知らせしたい。宮古教会は、津波に浸かつた教会を、主に地域に支援物資を届ける集積センターとして用いている。森分和基教師から、自然発生的に奉仕が始められた経緯、隣接の公設避難所とのやりとりなどを聞いた。その手際の良さに感心した同行の一人が、「先生はこの道のプロですか」と質問すると、「いいえ、素人です。高校生の時に兵庫でボランティアを体験したが、子どもの

遊び相手をしただけです」。なる程、ボランティアに口はいないだろう。しかし、体験は確かに生きていた。「一番必要なものには「休み」。この答えは、この後何人からも聞いた。週報作りだけでも頼みたい、説教者がいたら」。救援活動に普段の牧会、倍の働きが要求される。牧師を支えるボランティアが必要だ。

新生釜石教会では、礼拝堂前の駐車場スペースにテントを張り、お茶などを供する席が設けられた。そうしないと、物資を並べた会堂の中までは見えない通り過ぎると、柳谷雄介教師。道行く一人ひとりに声をかける。そこに、医師という札を首に掛けた見覚えのある人物。記者の教会でかつて伝道集会講師として招いたJOC S (日本キリスト教海外医療協力会)の樗戸健次郎ワーカーが医療相談に当たっていた。今お住まいはどちらですかと聞くと「ネパールです」。たまたま報告会で帰国中だった地域の、特にお年寄りにとっては、実に頼もしい存在だ。

柳谷教師の緊急に必要なものは、混乱の中で失われた腕時計。日常という時間が止まったのだということ

を思い知らされる。道中では新しい時計が手に入らず、同行の東海教区議長が、「安物で直ぐ壊れるかも知れないが間に合わせに」と断って自分の腕から外す。思いがあれば、時間だって提供し共有できる。



普段の聖学びの姿勢そのものが問われる

2011年

春季教師検定試験

神からの召しが問われる

2011年春季教師検定試験は、3月1日（火）～3日（木）、東京会場（早稲田の日本キリスト教会館）において、4階の教団会議室と6階の会議室（貸室）で行われた。今回の受験者総数は74名で、内訳は補教師58名（Aコース26名、Bコース17名、Cコース15名）、正教師の再受験15名、教師転入1名であった。

学科試験直後の委員会における判定の結果、補教師試験受験者58名の内、合格者37名、保留者8名、継続者（Cコース）11名で、不合格者は2名となった。正教師試験では、再受験者15名の内、合格者7名、保留者6名で、不合格者2名と

なった。また教師転入の受験者1名は合格となった。保留者というのは、学科試験の得点が合格点に少し足りなかった受験者で、改めてレポートが課せられ、後日提出されたレポートによって再判定を受ける者のことである。

学科試験に続き、2日目と3日目に個人面接を行った。それぞれ、個人面接に先立ち、全体会をもった。開会祈禱後、検定委員の自己紹介があり、続いて倉橋康夫委員長から、学科試験の結果を受けての講評が述べられた。

以下、今季の委員会としての評価・感想を記す。今回、正教師、補教師ともに不合格者の数は少なかったが、依然として保留者は多い。追試のレポートと

遣わされた教会の願いと祈りがある

誠実に取り組めば合格判定になる可能性があるとはいえ、もう一步の準備をもって試験に臨んでほしいと願う。特に、正教師の場合、合格しても際どい点数の人が多く、半年での受験準備は厳しいかもしれない。しかし、背後には、遣わされた教会の願いと祈りがある。奮起してほしい。

宗教法人法は、補教師の受験者にとってはまだ馴染みがないせいか、その意義や法としての用語について、理解が十分でない解答が多く見られた。しかし、補教師でも、最初から主任者として赴任する人もあり、法的な感覚をしっかりと身につけてほしいと思う。また、このところBコースとCコースの受験者の間

に大きな開きが見られ、Cコース受験者に準備の不足が多く見受けられた。特に、組織神学の答案には、神学的な思索の訓練が十分になされていないことが如実に現れる。神学校で学ばない分、自らに厳しく学びを課していく覚悟が必要である。試験の合格が最終目的ではなく、伝道者として教会に仕えることが求められている。教会への赴任までをしっかりと視野に入

今回の受験者の中には、神学校への大学院入学者も、神学部での基礎的な神学の学びを経ないままにAコースの受験をした人が数名含まれていた。3年後の正教師試験においては、す

2011 年春季・補教師検定試験問題

教憲教規および諸規則・宗教法人法（60 分）

（A、B、CⅢ）

次の2題に答えてください。

1. 教会役員会は教会運営について大切な責任を担っています。教憲教規に規定されている役員の務め、その選出について、さらに、役員会に関する教会担任教師の職務について述べてください。また、役員会の運営についてあなたが大事にしなければならぬと思うことを述べてください。
2. 宗教法人法で教会に課せられている所轄庁に対する手続きを条項を挙げ、その内容を文章で述べてください。

旧約聖書神学（60 分）（B、CⅢ）

次の2題に答えてください。

1. 旧約聖書における国家と宗教の問題について述べてください。
2. 旧約聖書における死と生の理解について述べてください。

新約聖書神学（60 分）（B、CⅢ）

次の3題のうちから、2題を選んで答えてください。

- ①ヨハネによる福音書の終末論の特徴について
- ②パウロ神学の中心的使信について
- ③ヘブライ人への手紙の神学について

日本語礼拝閉鎖の危機と闘いながら

第1回世界宣教委員会

第37総会期第1回世界宣教委員会が2月17日、教団会議室で開かれた。組織会によって木下宣世委員長に、秋山徹委員が書記に選ばれ、前総会期からの申し送り事項を確認し、新年度の歩みを始めた。

世界各地に派遣された宣教師の消息、困難な状況や病気などの情報、また受け入れ宣教師の各地での働きなど、前期より特に力を入れていた派遣・受入れ宣教師の働きを訪れて牧会的な配慮をしたことについて、また、当委員会の傘

下にある6つの小委員会に関連する報告、今年7月に東京で開かれるスイス・韓国・日本の三国際協議会の準備状況などの報告を聞き、承認した。

米国・サンフランシスコ・パイン合同メソジスト教会で4年間の任期を終えて帰国した藤浪敦子宣教師の活動報告、米国ハワイ・ウエスレー合同メソジスト教会日語部で4年2カ月の任期を終えて帰国した上田創宣教師の活動報告を昼食を共にしながら聞き、それぞれ、日本語礼拝閉鎖の危機と闘



木下委員長、藤浪宣教師、上田宣教師



聖研、説教準備の心構えを説く倉橋委員長

伝えていく上で、聖書の基本的な知識や理解と神学的思考が欠かせない。ただ試験のための準備ということではなく、今後も学びを継続してほしい。

今回は、第36総会期の教師検定委員会による最後の試験であり、2011年秋季試験から、第37総会期の新委員会によって実施される。受験者には、学科試験のための十分な準備が求められるが、何よりもまず、神からの召しが問われる試験であることを忘れず、謙遜に、また誠実に、備えていただきたい。

講評

今期の教師検定委員会の「方針」

の最初は、「本委員会は、主の召命に呼んで日本基督教団の宣教を担い、主の教会に仕える教師を送り出すために、一中路―教師検定試験を実施する」とありま

す。神からの召命が発端であることは、言うまでもないことです。そして、教団の宣教を担い、主の教会に仕える教師を送り出すことを願っているのです。

春季試験は、補教師受験者が大多数となります。今回の試験結果は、補教師受

（倉橋康夫 第36総会期委員長）

ることとした。(3)WCCJヤマイカ平和会議(5月12～26日)、EMS宣教協議会(6月24～28日)、英国メソジスト年会(6月29日～7月7日)への教団代表者の参加依頼について検討し、

候補者をあげた。(4)第37総会期の世界宣教委員会のもとにある小委員会の委員候補者をあげ交渉することとした。これら13項目に及ぶ協議事項を協議した。

（秋山徹報）

「伝道する教団の形成」に貢献するために

第1回伝道委員会



後列左から、杉森、小林、北川、成田、大三島(幹事)、橋(職員)
前列左から、川崎、内藤(総幹事)、米倉委員長、岩田書記

第37総会期の第1回伝道委員会が2月14日(月)～15日(火)、日本キリスト教

今期委員は、岩田昌路(江教会・西東京)、川崎善三(米子錦町教会・東中国)、北川善也(洛北教会・京都)、小林克哉(具平安教会・西中国)、杉森耀子(小田原十字町教会・神奈川)、成田いうし(磐上教会・大阪)、米倉美佐男(招集者／札幌教会・北海)各委員の7名。

委員長に米倉委員、書記に岩田委員を選任、各担当には、宣教委員に米倉委員長、「こころの友」信徒の友(編集委員)に北川、杉森各委員、農村伝道に岩田、成田各委員、刑務所伝道に川崎、小林各委員、伝道方

策検討委員に小林委員を選任した。

今期委員会の方針と計画は、前期委員会からの申し送り事項を引き継ぎ、「伝道する教団の形成」に貢献するために学び、協議し、提言する方向を決定した。2011年度予算は、教誨師会負担金を教団負担金から支出し、別口勘定会堂及び開拓伝道援助金調査、事務費補助50万円を計上することを含めて承認した。

2010年度後期分会堂貸出金申請(2件)は、葦崎教会(東海教区)への1千万円、ベテル清水教会(兵庫教区)への8百万円の貸出を決定した。2011年度開拓伝道援助金申請(6件)は、安行教会(関東教区)、新松戸教会(東京教区)、石和教会(東海教区)、ベテル清水教会(兵庫教区)に各180万円、名古屋西教会(中部教区)に30万円の援助を決定した。

第37総会期の伝道委員会の活動日程を協議し決定した。『農』に関する協議会

新任教師オリエンテーションの協議

第1回教師委員会

第37総会期第1回教師委員会が、教団会議室にて3月8日(水)に行われた。ヨシユア記3章1～5節より御言葉を聞いた後、招集者の小宮山剛委員が祈禱をさげた。各委員の自己紹介の後、委員会組織の協議を行い、互選により小宮山委員(富山二番町)が委員長に、堀眞知子委員(瀬戸キリスト)が書記に選出された。今期の委員は井ノ川勝山田、宇田真佐久、大友英樹(赤羽)、岸俊彦(経堂北)、吉澤永愛知である。

教師委員会所轄事項、今年度委員会開催予定、予算などについて確認後、前期オリエンテーションは、6月20日

は、2012年2月27日(月)～28日(火)に、四国教区か西中国教区の会場にて開催すること、教区伝道委員長会議は、2012年6月26日(月)～27日(火)に、東京教区の西千野本郷教会で開催される。その他、「伝道アイデア・アンケート」結果の集計と発行、「こころの友」応援教会の拡充、等についても協議がなされた。



後列左から、吉澤、井ノ川、宇田、堀書記、道家(幹事)
前列左から、大友、小宮山委員長、岸

(月)～22日(水)、2泊3日で天城山荘で開催される。主題は「教団の教師として宣教を担う」である。プログラムは、ほぼ例年通りに行われるが、特に今年より、過去においてオリエンテーションに参加できなかった補教師に対し、過去3年間まで遡って案内を出すこととした。

また「教会会議の持ち方」として受け止め、参加してほしい。



安藤恵三氏(隠退教師)

消息

(堀眞知子報)

その他にも、教団認可6神学校の問安、教師継続教育研修費、神学校日献金、人事交流、戒規問題について話し合われた。課題は多く、今期委員会でも結論を出しうるかどうか困難な面もあるが、各委員それぞれの賜物に従って任を果たさせていたきたいと祈っている。

次回委員会は、6月22日(水)、新任教師オリエンテーション後、天城山荘で開催することとした。

11年1月5日、逝去。78歳。旧満州・大連に生まれる。57年同志社大学大学院を修了、同年坂祝教会に赴任、蘇原教会を兼務し、世光教会、野洲教会、福岡城東橋教会を経て、02年まで高鍋教会を牧会し、隠退した。遺族は妻・安藤豊子さん。

モルモン教からの転入に関し答申

第1回信仰職制委員会



後列左から、深井智朗、須藤繁、田邊由紀夫、藤盛(総務幹事)、宮本(職員)
前列左から、小堀書記、菅原委員長、深谷松男、小池慶理子

第37総会期の第1回信仰職制委員会が2月28日(月)～3月1日(火)に、委員

7名全員の出席のもと教団遺愛会議室で行われた。まず委員の自己紹介がな

され、続いて組織会を行い、互選により委員長に菅原力(弓町本郷教会牧師)、書記に小堀康彦(富山鹿島町教会牧師)が選出された。委員長より、信仰職制委員会に関する規定及び職務について説明がなされた。

今回提出された諮問は、前委員会から引き継いだものを含めて5つあったが、「①モルモン教からの転入会に」

「①モルモン教からの転入会に」

「①モルモン教からの転入会に」

「①モルモン教からの転入会に」

東京教区連帯金拠出

去る1月21日、日本基督教団会議室で開催された第69総会期第6回東京教区常置委員会で、「2009年度に行った教区活動連帯金拠出留保を解除する」との、全教団的に見ても重大な提案がなされた。この日、長崎哲夫議長は下記の提案理由を上げた。

1. 三里塚教会問題に対する他教区並びに一部常議員からの発言が止んだ。2. 沖縄教区は教団と距離を置き、問安さえ拒否しながら教区活動連帯金並びに教団沖縄宣教連帯金だけは受領していたことについて、問題は解決してい

ないが、教団が当該教区宣教連帯金を段階的に減額している現状。3. 兵庫教区は阪神・淡路大震災関連の第二次募金に関し、教団との間で解決が見られないものの、第37総会期第1回常議員会が「第二次募金」の内、その役割を終えたものと、関東教区からの「新潟中越沖地震救援募金」の残金繰り入れの申し出を受けてスタートする議案23号「救援対策基金設置に関する件」を可決した。また、今期も引き続き教区活動連帯金の検討が継続されることとなった。さらに議案22号「伝道方策検討委員

会を設置する件」が可決され、全教団的に伝道体制が整えられようとしている。

これを対して常置委員から「上記決議にも拘わらず兵庫教区は返還しないのではないか、という危惧が残る」など、慎重意見もあったが、賛成意見が多数述べられた後、議長は「2011年3月31日をもって2009年度分の留保は解除し、2010年度分連帯金と共に教団に送金する」を提案し、これが異議なく承認された。

訂正・お詫び
「教団新報」4720号4面「教師検定試験公告」6、補教師「説教」「釈義」の課題テキスト①旧約 イザヤ書42章(1～14節を1～4節)にお詫びして訂正いたします。
教師検定委員会



小学科高学年の分級で

胆嚢炎と診断され、10月末、かつて無い腹痛に見舞われ、病院で

私は、1942年、錦州(旧満州)で警察官の父と陸軍看護婦の母との間に生まれました。引き揚げ後は、長崎に住みました。4月8日生まれの私は母から「仏縁がある」などと聞かされて育ち、人一倍宗教に関心を持っていました。中学の頃から無性に「人生のバックボーン」を求めるようになりまし

就職の時期になり私は或る大手メーカーに内定し、1966年初めて九州を出て大阪に赴任しました。ところが、1970年の結婚後間もなく、オイルショックを境に会社は大きなダメージを受け、

した。

しかし、その頃、私はこの世のものの脆さに直面していました。大手メーカーの子会社の管理部門に勤務していた私は、殆ど毎日、午前0時をまわって帰宅するという、忙しい生活をしていました。そして、2002年の10月末、かつて無い腹痛に見舞われ、病院で胆嚢炎と診断され、1



礼拝堂の跡地で、福島教会堀江知己教師

2011 年教区総会日程

教区	会 期	会 場	問安使
北 海	5月 5日(木)10:00 ～6日(金)15:30	札幌北光教会	岡本知之
奥 羽	5月24日(火)12:30 ～25日(水)15:45	奥羽キリスト教センター(盛岡)	内藤留幸
東 北	5月24日(火)13:30 ～25日(水)16:00	仙台青葉荘教会	内藤留幸
関 東	5月25日(水)10:00 ～26日(木)16:00	大宮ソニックシティー小ホール	岡本知之
東 京	5月31日(火)10:00 ～21:00	東京山手教会	石橋秀雄
西東京	5月29日(日)15:00 ～30日(月)17:00	吉祥寺教会	雲然俊美
神奈川	6月25日(土)10:00 ～16:00	清水ヶ丘教会	雲然俊美
東 海	5月24日(火)13:30 ～25日(水)15:00	ホテル翔峰(松本)	石橋秀雄
中 部	5月24日(火)13:00 ～25日(水)13:30	名古屋中央教会	岡本知之
京 都	5月 3日(火)10:00 ～4日(水)15:00	京都教会	石橋秀雄
大 阪	5月 3日(火)13:00 ～4日(水)17:00	大阪女学院ハールチャペル	石橋秀雄
兵 庫	5月15日(日)16:00 ～16日(月)18:00	ユニトピアささやま	岡本知之
東中国	5月23日(月)12:00 ～24日(火)16:00	倉敷教会	石橋秀雄
西中国	5月 5日(木)13:30 ～6日(金)16:00	エソール広島	石橋秀雄
四 国	4月28日(木)13:00 ～29日(金)15:00	道後温泉つばき館	雲然俊美
九 州	5月 2日(月)13:00 ～4日(水)15:00	九州キリスト教会館(福岡)	内藤留幸
沖 縄	5月29日(日)16:30 ～30日(月)17:30	沖縄キリスト教センター	石橋秀雄

地震に加え、放射線被害の恐怖も
苦渋の決断…福島教会礼拝堂撤去

いわき市は、福島第一原発から半径30キロの屋内退避エリアに一部がかかっている。人々が避難し、物流も滞り、閑散としているこの町の3つの教会(常磐教会、磐城教会、勿来教会)を訪ねた。

常磐教会は、この地に赴任して6年目の武公子教師が牧する。週日は併設する保育園の働きを担っているが、地震直後、保育園の教師が突然倒れ亡くなった。地震のショックに加え、ライフラインが途絶えた上、原発事故が起り、不安と緊張の中で過ごす。27日になって、教会員と共に礼拝を捧げることが出来た。15名の教会員がいるが、礼拝出席は7名程であった。保育園には、53名の園児がいるが、訪れた際に登園していたのは9名程であった。

磐城教会には、この4月から、上竹裕子教師が遣わされた。引っ越しが出来なかったために、スツケー

東日本大震災緊急救援募金のお願い

主の御名を讃美いたします。

3月11日(金)14時46分頃、マグニチュード9.0を記録する巨大地震が東北地方太平洋沖で発生いたしました。地震とそれに伴う津波により、岩手・宮城・福島を中心に大きな被害が出ています。被害の全容は未だ明らかではありませんが、被災した教会のために、多くの資金が必要となる事は、まちがいありません。日本基督教団では地震直後から情報収集を始め、12日には救援対策委員会を設置、支援のための準備を整えはじめております。

けれども事は急を要します。教団社会委員会では、ただちに募金を開始いたします。祈りをもってご協力をいただきますよう、お願いを申し上げます。なお、本格的な募金は、常議員会が設置する委員会にて行なわれる予定です。

2011 年 3 月 14 日
日本基督教団社会委員長 釜土達雄

記

- ◎募金期間 特に定めず
 - ◎目 標 額 特に定めず
 - ◎送 金 先 加入者名／日本基督教団社会委員会
 - ◎郵便振替 00150-2-593699
- (通信欄に「東日本大震災緊急救援募金」とお書きください。)
- 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31
日本基督教団社会委員会(電話 03-3202-0544)

の損傷は激しい。東日本大震災の被害は津波によるものが大きく、いわき市、福島市とも町の中心部は、目に見える形で震災の爪痕はほとんどない。しかし、放射線という

見えない敵が、人々に暗い影を落としている。今回、記者は、支援物資を届けるために福島に赴いた松本周教師(聖学院大学)に同行し、いわき市の教会を支援している島田進教師(日立教会)に案内してもらった。両師とも、教区の枠を超えて、物心両面において長期的に支援しつつ、伝道を進めて行くことが大切だと語った。(嶋田恵悟報)